

## 令和6年度 延岡市立三川内小中学校 学校評価

子ども一人一人の将来を見越して、キャリア教育を基盤に、9年間の発達段階に応じた確かな学力の定着と豊かな心の育成に取り組み、「一人一人の可能性を拓く学校」を目指す。

4段階評価 ( 4:よくあてはまる 3:ほぼあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:全くあてはまらない )

重点項目	内 容	質問事項(職員用)	アンケート結果						結果の考察・分析および改善策等	学校関係者評価	学校関係者評議委員(学校運営委員)コメント
			保護者(小)	保護者(中)	児童	生徒	職員	全体			
キャリア教育の推進	○ 9年間の発達段階に応じた適切なキャリア教育を推進し、自己管理や汎用的な能力を育成する。	1 子どもたちは自己理解に努め、目標をもっている。	2.9	2.7	2.9	2.9	2.9	<b>2.9</b>	<p><b>【考察・分析】</b> □1は全体評価が3を下回り、目標をもつ・自己理解に努める児童生徒の意識を今後高めていく必要がある。 □2は、保護者及び児童生徒と職員の評価で、0.3程の格差が見られた。学校での取組がキャリア教育に十分反映されていないと思われる。</p> <p><b>【改善策等】</b> ○自分の目標や学校で取り組んでいる行事などを自分の生き方にどうつなげていくかを文章化したり発言したりする機会を与えて、自己理解や目標などの意識化を図る。</p>	<b>3</b>	<p>○学校の目標が高い設定であるため、児童生徒・保護者に十分反映させるのは難しい。 ○1は、中学生になると、将来の進路も考えないと行けなくなり、多感な時期に自己理解や目標設定などが難しいと思う。 ○全般的に子どもたちが目標をもっているとはあまり思えない。 ○児童生徒が外に出て活動する機会が少ないのではないか。 ○2は、自分の子ども時代と比較すると講話を聞く機会や校外学習は格段に増えている。とても良い経験になっている。自宅でイベントや行事に対してしっかりと話す環境をつくるとよい。 ○なぜキャリア教育が今後大きな意味をもつのか、保護者や児童生徒に伝わっていないのではないか。保護者にしっかりと理解いただき、学校が行うキャリア教育を実りあるものにしてほしい。 ○保護者の連携し、社会で行われているボランティア活動や講話などに積極的に参加できると良い。</p>
		2 子どもたちは職業講話や校外学習などで生き方や仕事への視野を広げている。	2.9	3.2	3.0	3.0	3.3	<b>3.1</b>			
地域との連携活動の充実	○ 地域を交えた教育活動を通して、地域を知り、ふるさと愛を育み、地域創成学習を推進する。	3 子どもたちは学校や地域の方々との活動に積極的に参加している。(田植え、茶園、MKD等)	3.6	3.8	3.8	3.9	3.9	<b>3.8</b>	<p><b>【考察・分析】</b> □地域と連携した豊かな体験活動により、高い評価結果となっている。</p> <p><b>【改善策等】</b> ○毎年同じような体験にならないように内容を少しでも工夫したり、学年に応じた役割を明確にしたりしてマンネリ化を防ぐなどの対策を講じる。</p>	<b>4</b>	<p>○普段から田植え等の手伝いや伝統芸能に参加させている結果が出ている。地域の方々の協力があつてこそである。学校の協力もあり、ほとんどの子どもが地域に根付いて地域の宝となっている。</p> <p>○必要な体験を繰り返すことは悪いことではない。重ねるごとに意味が変わったり思いも変わったりする。学校側のイベントにせず、子どもたちと話し合いを進めて欲しい。</p> <p>○児童生徒は、MKD作戦や祭りに参加して、地域社会の一員として貢献しているという自覚が生まれていると思う。</p>
学力の向上	○ 全職員でひなたの学びに関する研修に取り組み、授業において基礎基本の確実な定着を目指すとともに、個に応じた指導を充実し、主体的に学びに向かう姿勢を引き出す。	4 子どもたちは授業で問い合わせをもち、自分の考えを分かりやすく表現したり他者と共有したりして、考えを深めている。	3.0	2.7	3.1	3.4	2.9	<b>3.0</b>	<p><b>【考察・分析】</b> □4は、保護者及び職員は2.9、児童生徒は3.2と、評価が分かれました。 □5は、保護者の評価が若干低いが、ほぼ3.0の結果となった。</p> <p><b>【改善策等】</b> ○本年度、宮崎県が推奨する「ひなたの学び」に職員一丸となって取り組んだ。来年度も継続し、児童生徒の学力向上を目指す。 ○家庭学習への共通理解と共同実践を保護者とともに取り組み、基礎基本の定着に努める。</p>	<b>3</b>	<p>○生活リズムは大切なことだと思うので、児童生徒にしっかりと指導してほしい。</p> <p>○4は、学年によって差があるのではないか。</p> <p>○参観日の時に授業の様子を見るだけで、自宅でも授業の話を我が子とするこはほとんどないので、なんとかといった評価になった。</p> <p>○5は、保護者が教科の内容等について理解していないのではないか。</p> <p>○児童生徒の興味が低い教科は、多面的な視野をもって指導していくことが大切である。</p> <p>○すぐ親に聞いたり携帯で調べたりして、子どもたちは自分で考えることをしなくなっていると感じることがある。自分で調べる教育活動が必要である。</p> <p>○小規模校の利点を活かし、「ひなたの学び」を推進して欲しい。</p> <p>○スポーツの種類は限られているが、できるだけ多くのスポーツを体験させて、体力向上や精神力強化、協調性を図って欲しい。</p>
		5 子どもたちは各教科の学習の基礎基本を理解しその定着に努めている。	3.0	2.8	3.1	2.9	3.0	<b>3.0</b>			
体力向上の推進	○ 体力テストの分析をもとに、スクールスポーツプランに基づいた実践を行い、授業や業間の時間(各種運動時間)を通して、体力向上を図る。	6 子どもたちは体育学習や昼休みの外遊び等に積極的に参加している。	3.2	2.5	3.4	3.0	2.8	<b>3.0</b>	<p><b>【考察・分析】</b> □6は、児童の結果は全体平均を上回り、生徒は同水準であった。小学生は昼休みに屋外で積極的に遊び、中学生は体育の授業での縄跳び等の体力づくりの影響もあり、全体として体力向上に寄与している。中学生の保護者は2.5と低く、体力向上への認識に差がある。</p> <p>□7は、児童は3.4と比較的高いが、生徒は2.8で低めであり学年が上がるにつれて生活のリズムの乱れが生じている可能性がある。</p> <p><b>【改善策等】</b> ○体力向上や健康に関することは、学校での体力向上の取組を学校保健委員会で共有を行うなど家庭と連携した取組が必要である。</p>	<b>3</b>	<p>○休日時の室内でTVゲーム等をすることが多い、外での活動が少ないと思う。</p> <p>○6は、小学生は外に出て遊んでいるようであるが、中学生は体育の時間ぐらいしか外に行かないのではないか。</p> <p>○曜日によって起床時刻の差がある。</p> <p>○7は、学年が上がるごとに宿題も増え、中学生は特に自分の時間を大事にしたいという思いが強いのではないか。</p> <p>○生活の乱れの原因を探るため、家での携帯やゲーム・アニメ等に関わっている時間のデータ等があるといい。</p> <p>○高学年になるにつれて周りの環境に順応しているようだ。</p>
		7 子どもたちは適切な睡眠時間をとり、リズムの良い生活を過ごしている。	3.1	3.1	3.4	2.8	3.0	<b>3.1</b>			
子どものやる気を引き出し、その活躍を称賛する場の設定	○ 生徒指導の機能を意識して、児童生徒が体験や活動を通して学ぶ機会を設定する。 SWPBSに関する実践を充実させる。	8 子どもたちは自己の頑張りを認められる場があり、他者を尊重している。	3.2	3.3	3.4	3.5	3.3	<b>3.3</b>	<p><b>【考察・分析】</b> □8は、保護者、児童生徒、職員ともに平均が3.3と高い。自己の頑張りを認められる場があり、他者を尊重する意識が育まれていることが考えられる。</p> <p><b>【改善策等】</b> ○SWPBSの実践については、本校で本格的に実践していくには、職員間で共通理解を図っていく必要がある。</p>	<b>3</b>	<p>○高学年になるほど結果が良い。発表の様子では、はっきりと自分の考えを主張できていた。</p> <p>○運動会、文化発表会、ビブリオバトルなど、児童生徒が役割を自覚し、協力でき、他者を尊重する意識も育まれていると思う。</p> <p>○自己肯定感が高いのは良いことだが、上記の項目が低いのは実態が伴っていないのではないかと考える。</p> <p>○最近は、放課後の時間帯に三川内地区を自転車でウロウロする姿が見られる。家の中で一人でゲームをするよりはみんなで外で遊ぶことを重視したい。</p> <p>○児童生徒の主体性を高めて欲しい。</p>
道徳、人権教育の充実	○ 道徳や人権学習の実践を蓄積し、深めていく道徳教育の充実を図る。	9 子どもたちはあいさつができる、よい言葉を遣つて生活できている。	3.0	3.2	2.9	3.3	3.2	<b>3.1</b>	<p><b>【考察・分析】</b> □9は、子どもたちは挨拶やよい言葉遣いを意識して生活しているが、児童の結果は2.9とやや低く課題が残った。</p> <p>□10は、全体的に高い結果となった。保護者も含め学校全体で「いじめや嫌がらせ」を絶対にやしないという考えが浸透している。</p> <p><b>【改善策等】</b> ○学校においては、いじめの未然防止・早期発見・適切な対応を組織的に行い、一層強化する。</p>	<b>4</b>	<p>○9は、児童生徒ともに道で会ったときも挨拶をしてくれるため、そんなにできていないようには思えない。以前より挨拶はできるようになったと思う。特に男子は元気良い受け答えができる。保護者や教師に促されずに自発的に挨拶をして社会性を高めて欲しい。</p> <p>○挨拶は、できる子、できない子がいるのも事実です。声が小さかったり素通りしたりする子どもが見られる。全員が誰を見ても大きな声で挨拶できると良い。</p> <p>○10の質問の結果が高いのは、とても良いことだと思う。小中一貫校の良いところではないか。本校には、いじめなどないよう思う。</p> <p>○兄弟同士では、暴言になることがある。</p> <p>○いじめはゆるさないのではなく、「しないもの」と、あたりまえにしてほしい。先生方も一貫した態度と距離感を保つことが必要。</p> <p>○大人もいじめをしない、許さない考え方をもつことが大切である。</p>
		10 子どもたちはいじめや嫌がらせをやしないという気持ちが育っている。	3.5	3.5	3.5	3.9	3.6	<b>3.6</b>			